

本五の動脈 「上小江尾橋」が完成



▲井上町長を先頭に渡りぞめ



▲うれしさを満面に渡りぞめをする地元の人びと



▲完成した上小江尾橋

四月八日、本五地区は、小江尾川にかかる「上小江尾橋」が完成し、明るい喜びに包まれていました。

この橋は、明るい坂道と県道を結ぶ橋で、三、五六二万円の巨費を投じて、橋長三三・〇六メートル、幅員三メートルという堂々としたものです。

竣工式で、井上町長・中田町議会議長ら来賓の見守る中、仲嶋区長は「川を境として不便でしたが、この夢の橋が完成し、今日から往来が便利になりました。今後集落の発展に陰に陽に直接に間接に寄与する大きな力となることを信じ、期待します」とお礼のことばを述べました。



第170号

発行者
鳥取県江府町
電話江尾代5-2211
編集 総務課
印刷 (有)富士印刷

江府町の人口

(3月31日現在)

世帯数	1,322	世帯	
人口	5,067	人	
	(前月比)	6人減	
(男)	2,447		
(女)	2,620		
出生	6		
(男)	2		
(女)	4		
転入	32		
(男)	20		
(女)	12		
転出	34		
(男)	18		
(女)	16		
死亡	10		
(男)	8		
(女)	2		

2,000万円

は20パーセント



▲ 3 月 定 例 町 議 会

予算編成にあたって

政府は本年度予算及び財政投融资計画において財政再建を最重要命題とし、一般会計予算においては経費節減、合理化に努め、予算規模を前年度以下に圧縮し、行政改革の徹底により行政経費の節減を計り、新規の行政需要についても公務員の増員は行わないとしているのであります。

地方団体に対しても国と同一の基調に立つよう指導方針をしております。

このような国の基本方針の下に、本町としても当然行政の総見直しを行い、行政改革を命題として財政の健全化、行政の合理化に最大の努力を致さねばなりません。

昭和58年度の各会計予算審議を中心とした3月定例町議会が、3月12日から8日間開かれ、原案どおり可決されました。

以下は、この定例会の初日、井上町長から述べた新年度予算案の提案理由と行政方針の要点を収録したものです。

● 歳出

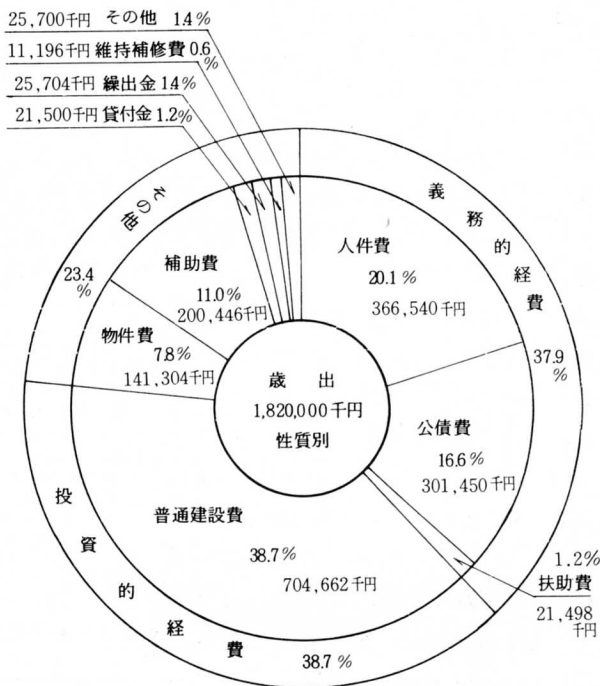
しかしながら、国際経済の不況の波は直に我が国経済に波及し、景気の低迷と産業不振は次第に深刻になって来ております。

このような経済不況下における町村財政としてもこれに対応するためにも農林業を始め、中小企業、勤労生活者など経済力の育成に努め、圧縮財政の中にも産業振興、社会開発、福祉対策、教育振興、地域開発など重点対策を配慮し、一八億二、〇〇〇万円の予算を編成いたしました。

性質別構成は、下図のとおりですが、構成を分析して見ますと、本年度は特に財政を圧縮して予算を編成いたしましたので、義務的経費の割合は上昇し、人件費の構成も予算に対し二〇％となっております。

特別会計予算

11件	722,661千円
(内訳)	
国民健康保険	208,483千円
簡易水道事業	64,838千円
米沢財産区	2,870千円
神奈川財産区	180千円
江尾財産区	560千円
住宅新築資金等貸付事業	15,676千円
老人居室整備資金貸付事業	10,315千円
障害者住宅整備資金貸付事業	6,087千円
索道事業	46,000千円
老人保健	237,000千円
奥大山国民宿舎山荘甘酒茶屋	130,652千円
(いずれも歳入、歳出同じ金額です)	



ります。しかし一般経常費の節減には特に意を用いて計上しました。本年度の本町予算の伸率は七二・八(二七・二)削減)となっております。また、本年は極力財政見直しを行い、予算の圧縮を致したものであります。

昭和58年度

一般会計
予 算

18億

人件費

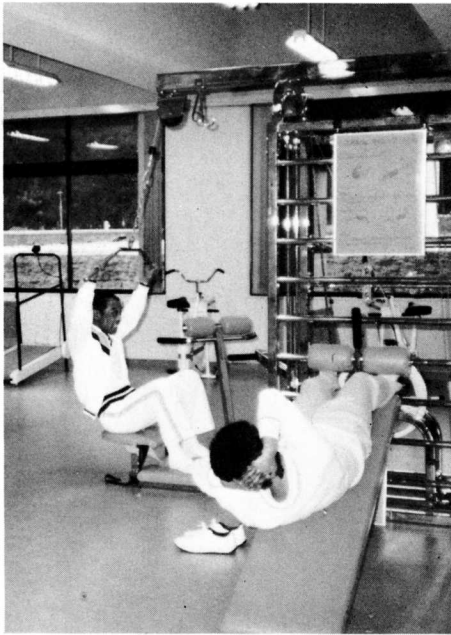
総務費

四億二、五二三万四千円

総務管理費

三億八、一九二万円

町長、町議会議員及び各行政委員会並びに非常勤特別職の報酬はすべて据置といたしました。
区長は条例によって行政事業を委託しておりますが、本年から各集落に対し事業費を交付することに改めるために条例改正案を提出いたしております。



▲健康増進のために大にご利用を

財産管理費 一九、四三九千円
徴税費 二六、五四五千円
交通安全対策費 二、一七八千円
消防費 三四、一〇九千円
集落経営基金 一三、七五〇千円

昭和五十六年に創設されました集落経営基金の制度は、集落の経営、福祉、産業、文化、厚生など、自主的な活動を助長し、町政の原点たる集落社会の育成を図らんとするものでありまして、この基金は本町の行財政の上から、又社会政策の上から歴史的意義を有する画期的基金制度と確信しております。

要はこの基金が集落の自治経営を始め、例えば婦人、青年、老人達の団体活動や、ボランティア活動などにも活用され、大いに社会開発に役立つ基金となりますようお願いとあります。

スポーツ公園

社会交流の場

先年来スポーツ公園の造成を進めてまいりました。
トレーニング室を含む総合体育館、グラウンド、テニスコート、グラウンド照明など完成しました。
これからテニスコート照明、ゲ

次ページへ

歳 出 歳 入

区 分	予 算 額	構成比	対 前 年		区 分	予 算 額	構成比	対 前 年	
			増 減 額	伸 率				増 減 額	伸 率
	千円	%	千円	%		千円	%	千円	%
議 会 費	46,483	2.6	△ 2,048	95.8	町 税	295,804	16.3	52,700	121.7
総 務 費	425,234	23.3	△ 485,679	46.7	町 民 税	123,000		27,400	
民 生 費	119,718	6.6	△ 80,955	59.7	町 定 額 税	120,003		23,000	
衛 生 費	88,825	4.9	2,475	102.9	町 軽 税	4,001		—	
労 働 費	2,324	0.1	63	102.8	町 自 動 車 税	19,000		500	
農 林 水 産 業 費	369,359	20.3	△ 102,231	78.3	町 電 気 引 取 有 限 公 司 地 保 有 税	25,000		2,000	
商 工 費	46,132	2.5	△ 706	105.9	町 材 料 特 別 土 地 保 有 税	300		△ 200	
土 木 費	108,972	6.0	△ 127,257	46.1	町 交 通 車 道 重 量 与 譲 交 付 金	4,500		—	
消 防 費	34,109	1.9	△ 8,284	80.5	町 自 動 車 道 重 量 与 譲 交 付 金	605,000	33.3	△ 34,800	94.6
教 育 費	227,184	12.5	94,865	171.7	町 自 動 車 道 重 量 与 譲 交 付 金	8,500	0.5	—	100.0
公 債 費	301,500	16.6	36,100	113.6	町 自 動 車 道 重 量 与 譲 交 付 金	5,000	0.3	—	100.0
諸 支 出 費	31,160	1.7	△ 5,343	85.4	町 自 動 車 道 重 量 与 譲 交 付 金	12,000	0.7	—	100.0
予 備 費	19,000	1.0	△ 1,000	95.0	町 有 限 公 司 支 出 金	400	—	—	100.0
合 計	1,820,000	100.0	△ 680,000	72.8	町 国 庫 支 出 金	321,196	17.6	△ 151,592	67.9
					町 国 庫 支 出 金	231,921	12.7	△ 43,077	84.3
					町 分 担 金	61,692	3.4	△ 23,857	72.1
					町 財 政 使 用 金	7,291	0.4	2,917	166.7
					町 財 政 使 用 金	47,671	2.6	△ 6,327	88.3
					町 財 政 使 用 金	2,600	0.1	△ 9,560	21.4
					町 財 政 使 用 金	38,071	2.1	△ 205,223	15.6
					町 財 政 使 用 金	18,000	1.0	8,000	180.0
					町 財 政 使 用 金	34,737	1.9	902	102.7
					町 財 政 使 用 金	129,600	7.1	△ 270,600	32.4
					町 財 政 使 用 金	517	—	517	—
					町 財 政 使 用 金	1,820,000	100.0	△ 680,000	72.8

ートボールコート、水泳プール、そして周一一のジョギングコース、折返し一五歳のマラソンコースの設定など整備し、運営と活用を適切に行ってゆく所存であります。

このスポーツ公園は町民の日常生活に結びついた自然であり心身の保養と体育の場でありますし、社会交流の公園でもありますので、これから更にポプラ並木の散歩路や、桜の山の遊歩道など住民の自然公園としても整備をいたしたく念願しております。

運営につきましては、この施設は町民全体の公有施設であり、社会資産でありますので、まず大切に愛護して利用することを要請するところであり、更に広く全町民が利用するために使用上のルールを定め、何人もこれを社会ルールとして守ることを要請するところでもあります。

なお、夜間は電力を使用することになりますので、施設は一切町の負担において設置しこれを維持していくものの、日々使用する電力については利用者負担の方式で使用ルールを設定いたしました次第であります。

従って、これらのルールに基づく運営については館長と館職員を任命し、外に町長の諮問する運営委員会と実行委員会を置き運営を図る所存であります。

行財政の調査と管理

本年度町長の執行部に調査と管理の機能を強化し、国並びに県の行財政見直しに即応して本町の見直しの徹底を期する方針であります。

行政調査会と情報活動

この行政調査会については既に規則は制定されておりますので、現下の社会世論に対応し、適切な委員会を構成して世論の吸収を図り、又正確な町政の真相情報の連絡公表の機能の強化を図る方針であります。

集落の行政座談会

私は集落の行政座談会は町政の基盤であり原点と存じております。従って各集落の行政座談会を開くことに努め、これには私は必ず出席して町政を報告し町民の意見要望を吸収して町政に生かすよう努めて来ましたが、本年も一層努力して参ります。特になるべく小さな弱い声に意を傾け、声なき声の感収に努めてまいりる所存であります。

同和对策事業費

六、一三六万二千元

有線放送増設費	一四〇千円
地区内外灯新設費	二〇〇千円
明道児童館運営費	三、七〇〇千円
生活相談員設置費	三、三〇〇千円
同教推進協議会費	一、〇〇〇千円
同和对策研修育成費	一、三〇〇千円
同教・県西部協対策費	七、五千円
高校大学進学奨励金	三、三〇〇千円
住宅新築資金貸付事業費	一、五、六、六千円
ほ場整備事業費	三、五〇〇千円
後進地域経営改善事業費	五、千円
農道近代化資金利子助成金	六、五、千円
同和小口融資利子補給金	六、四、千円
同 和 教 育 費	三、五、四、千円
同和教育集会所費	二、二、千円

同和教育は基本的人権にかかわる問題であり、極めて重大な国民的命題として国も地方公共団体も責務としてこれを推進しなくてはなりません。

昭和四十四年に制定されました「同和对策事業特別措置法」は時限立法のため延長のち改められ、昭和五十七年四月一日より五か年の時限法として「地域改善対策特別措置法」が制定されましたので、本町におきましても環境改善事業、生産改善事業と共に同和教育の推進を図ってまいります。

同和教育はもはや知識ではありません。意識確立の時であり、そして今や実行の時であります。そしてまず自己自身の問題であるとの自覚のもとに、何人も己と対決して自己改革を推し進める運動を強く求めていく方針であります。



▲ 同和对策事業で完成した排水路

民生費

一億一、九七二万八千円

キメ細かく

福祉の推進

社会福祉基金

本町の社会福祉基金は昭和三十七年に創設して、当初は全町の皆さんの善意をお寄せいただき、これを基礎として自來育成してきた基金でありまして、現在二、三〇〇万円の基金に育っておりますが、本年度は二五〇万円を積立て、二、五五〇万円の原資に育成いたしました存じます。

この基金によって生れる預金利息一三二万一千円は本会計を通じて法外援護の福祉対策に充てて来たところでありますが、今後これを強化してまいります。折柄国並びに県の行財政の見直し政策と共に、老人医療や母子対策や福祉対策に法改正や基準の改訂が行われましたが、本町としては国の法律の改正、県の規程の改正には順応することを原則とし、しかし実情に照らし、この基金運用をもって適切に対処する方針であります。

社会福祉総務費

一、八七六万四千円

この事業費の中には社会福祉基金運用益の本会計繰入れによる法外援護の事業費が生まれ、当該者の身体的、経済的、精神的心情を援護し、もって社会福祉の充実を図らんとするところであります。

老人福祉費

二、一七九万八千円

人生の到達すべき老境に心身共に安住の境地が在ってこそ、人生に努力と希望がある訳であります。安住の境地とは唯に物質経済の条件対策だけの問題ではないはずでありますのに、現今の経済社会の意識は経済的対策だけを対象に論ぜられがちであります。

しかし、老人福祉はまず家庭や近隣社会の愛情の中に安住の境地があると存じます。

しかも老人自身が自分の健康は自分で守るといふ逞しい精神力を持ち続ける事が老境における心身ともに若さを保ち安住の境地があると存じております。

老人福祉明德学園

一八六万二千元

(社会教育明德学園)

一二七万円

計三二三万三千元

老人福祉と老人学級を吻合させ、老人の自発参加を求め、心身共に若返えりと健康自励を基調として老人の集団学習明德学園は本町の各家庭や社会に無くてはならぬ最高学府であり、本年度は更に専攻課程の充実と学園の特色を追求して行きたく念願しております。



▲ゲートボールで健康管理

身体障害者福祉対策

本町においては、かねてから身障福祉協会の活動を後援し、身障者の社会参加と平等の原理を大切に守っていく考えであります。

本町は昭和三十七年創設の重度心身障害児者養護手当金制度、あるいは重症者福祉電話設置、又社会福祉基金などをもって対策の充実を図ってまいります。

特別医療費

一、〇九五万九千円

県と町との政策として一歳未満児及び身障一、二級並びに義務教育終了前の児童を有する母子家庭等に対する医療費の公費負担を県と共に町費をもって負担するものであります。

母子父子福祉費

一四八万七千円

人生の大半を孤独に耐え、子女の養育に専念するしか方法の無い境遇と人生は表現を越えてきびしいものがあります。

行政はこの人生に社会愛と希望と活力の育成に努めなければなりません。一層努力する方針であります。

国民年金事務費

五〇三万二千元

国民年金は現代社会の社会政策として極めて重要な老後及び有事の保障政策であります。本町の現状は住民総加入掛金完納の実績を進めておりますので、これを守ってまいります。

労働費

二二三万四千元

本町の勤労所得者の健康増進並びに生活対策を進め、更に勤労意欲増進の一助のために充実していく方針であります。

衛生費

八、八八二万五千元

健康推進に努力

衛生対策は自治行政の最も重要な行政の一つであります。

それは、直接住民の生命と健康管理にかかわる問題であるからであります。今後一層住民の衛生対策充実を図ってまいります。

本年は、特に各種の検診を徹底いたしたく存じます。現代の科学は飛躍的に進歩し、医学も向上を遂げて来ておりますが、しかしまず検診に参加しなければ早期発見、早期治療の恩恵に浴することが出来ません。

本年二月一日施行の老人保健法

の上からも、健康管理、検診は当然大切な対象分野でありますし、更に食生活の総見直しも併せ適切に充実対処してまいります。

- 子 防 費 二、八五一千元
- 母 子 衛 生 費 五〇七千元
- 健 康 推 進 費 四三七千元
- 婦 人 健 康 対 策 費 六三〇千元
- 老 人 保 健 対 策 費 五、五〇五千元

衛生施設組合負担費

二、三八六万三千円

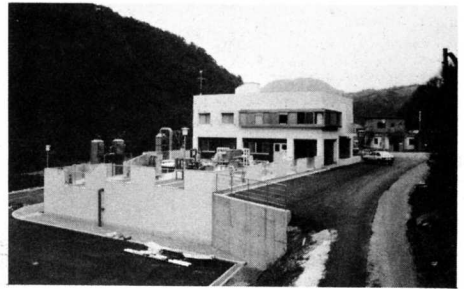
日野町、江府町、日南町衛生施設組合の本年度予算は七七、〇〇〇千円でありまして、本町の負担金は二三、八六三千円であります。組合の施設整備事業は昭和五十六、五十七年の二か年の継続事業として四三〇、〇〇〇千円を投入して完成いたしました。これによって処理能力一日三〇tとなり、しかも処理排水の清浄化を高め、又、収集速度の増強を期し、地域の環境衛生行政の進展を見たことは欣快とするところであります。

じん芥処理費

一、五六八万五千円

じん芥及び不燃物処理については年々処理費が増大し、又収集地域も広げてまいりましたが、今後更に町全域に広め環境衛生の実を上げてまいりたく存じております。なお、農家集落の農業廃棄物のための「灰焼場」につきましては、昭和四十九年度以来所謂江府町方式の「灰焼場」の設置活用方を提唱するところであります。

ただし、この高率補助政策をとっておりますのは、農家の廃棄物は必ずしも現行のじん芥収集車及び収集袋に適合しない実情があり



▲完成したし尿処理施設

ますので、却って集落灰焼場を活用することも一方法かと存じますからであります。そのため、町は集落の希望を受けて設計を提示することといたしております。

水道整備

本町における簡易水道の普及率は、昭和五十七年度末において九六・五割に達しますので、本年は柿原地区に施工することによって本町は正に九九割に達する訳であります。

しかし内容を検討すれば、個々には既に老朽化した水道もあり、又水質及び水量や水圧のために火災鎮圧機能の無い水道も多く、現代の多目的水道の機能兼備の力の充実を期さねばなりません。

農 林 水 産 業 費

三億六、九三五万九千円

放牧草地の実現を

農 業 費

三億二、一三五万円

日本農業にとって水稲作の減反政策は、米の需給の実情によるとはいいながら極めて深刻な反農的時代といわなければなりません。国は減反農地は転作をもって新農業を拓くべしとしておりますが、

中山間の積雪地帯に在っては、その作目に生産性の高い作目が見当たらないことが問題であります。近代の水稲作農業は正に機械農業であります。この機械農業は省力と作業効率を上げることにより

ますが、現今の経済社会の実情は経済の低迷が続く就業難の時代となってきたる時に、コンバイン農法による省力労働の配分計画の問題があります。更に稲藁の田地放棄のシステムは、もはや農業経

営上できることではありません。それは有機米と称して、有畜農業による産米と稲架乾の米を求める世潮は益々高まっております。ことに稲藁の払底からくる買高の傾向は、もはや藁は産米の副産物ではなく、反収の一部となつてきているからであります。

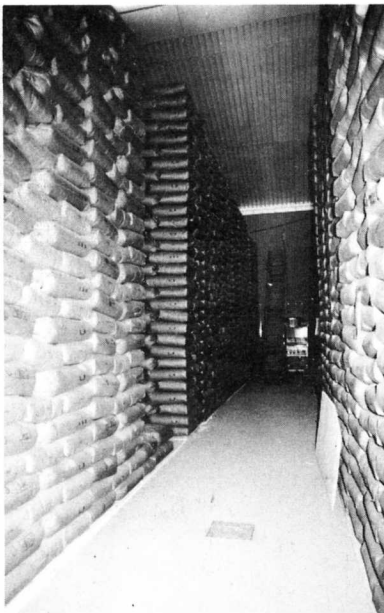
特に藁は地元農家の畜産経営上不可欠のものであり、全町畜産振興を左右する資材であります。さらに、転作作目の選定の中に大豆が上位作目として指導されて

おりますが、中山間地に在って、全反大豆の単作は土地条件上困難で、労力的にも問題があります。これは一割乃至二割の減反抜を条件に、畦豆方式の復元を計ることも考えるべきであります。

これ等はすべて水稲作の今日的見直しとして再検討し、経済不況と失業の時代に処し、農業充実の方策を強化すべき時と思考するところであります。

昭和五十七年度の産米の作柄は、全国的にやや不良のため微調整がなされ、転作目標の一〇九、七tに対し〇・三tが減となりました。一方ほ場整備面積が三・五tの増となり、昭和五十八年度は一・二tを實施することとなりました。

なお、売渡限度数量は二五、六一六俵とし、昨年対比一二二俵の減となっております。



▲農協倉庫に積上げられた米俵

農業振興費

1,440万4千円



▲大根の出荷におおわらわ

長期放牧経営の追求

放牧経営を追求し、放牧の限界を究明することは、山国の農畜産経営の基本問題と思考するがゆえに、毎年継続して実施していく方針であります。

酪農草地造成

酪農にあつても、今後の低乳価に対応力を持つ酪農経営を定着させるためには、まず牧草区を含む放牧草場が先決であります。積雪期は別として、酪農はすべて草地

- 家畜導入利子補給費 八二六千円
- 酪農経営維持対策費 五九五千円
- 自然飼料貯蔵対策費 九四四円
- 肉用牛飼育対策費 一五〇千円
- 子牛互助会対策費 三〇〇千円
- 放牧経営追求事業費 三〇〇千円
- 優良雌牛保留対策費 二九七千円

一、二五〇万四千円

畜産振興費

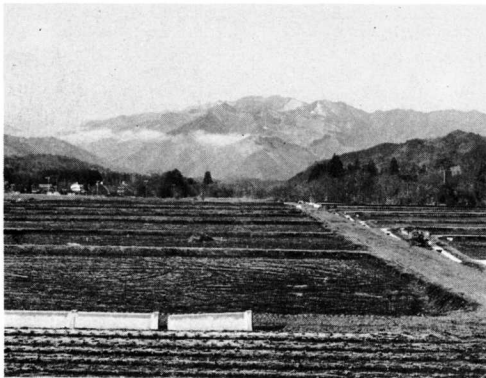
- 野菜生産圃地育成対策費 七〇千円
- 水田利用再編計画促進費 一九〇千円
- 水田転作促進対策特別事業費 九二五千円
- 新農業生産総合対策事業費 八、五〇〇千円
- 被書農業者経費資金対策費 一、〇八九千円

の上に畜舎を設け、草の上で家畜にも快的な搾乳を行うような、牧歌的な酪農型態がこれからの定着条件と考えます。酪農型態として当然のごとくですが実は現今酪農農家の減少する原因の最大は飼育管理の労力がかかり過ぎる事にあるからであります。これを排除するため所有型態を調整し、放牧草地の設定を実現いたしたく存じております。

土地改良

七、九七二万七千円

- かんがい排水事業費 二、一五五千円
- ほ場整備事業費 二、三、〇六七千円



▲美用地区のほ場整備

- 農村基盤総合整備費 三、九一七千円
- 広域農道負担金 三、〇五三千元
- その他 二八、五三三千元

貝田地区で

区画整理

農業構造改善事業費

一億一、一六九万三千元

貝田地区を指定地区とし区画整理、農道整備、水路改良等を実施して農業条件の整備を行う方針であります。

山村振興対策事業費

三、一六五万一千円

第三期山振対策として、昭和五十六年度から向う五か年間継続して各種山村対策事業を実施するものであります。本年度において多目的集会所施設一か所を計画し、集落の環境整備を行い、農村基盤の近代化を図るものであります。

- 山村開発センター管理費 二、四八四千元
- 地域農政特別対策事業費 三、三七三千元

同和对策事業費

三、三八六万七千円

同和对策事業として、ほ場整備事業(三三、二五〇千円)を計上、農業条件を整備し、経営改善資金利子補給六一七千円を計上し、農業経営の近代化を進めるものであります。



▲小江尾地区の戸鼻線農道

手づくりの村整備事業費

二一〇〇万円

本年度から国の農業政策の一環として実施されるものであります。地域住民の創意工夫と、共同作業により身近な生活環境整備を行うことにより、住民の連帯性の向上を図りながら地域社会生活の充実に向上を図るものです。



▲公営森林造成1,000畝達成 (久連山団地30年生)

林業費

四、八〇〇万九千円

町行造林費

三、六七八万九千円

本町は昭和三十七年から長期造林計画を立て、逐年造林施業を実施してまいりました。

他に公団造林県公社造林などを導入して施業してきました。

本年度におきまして三畝を新植する計画であります、この計画を実施いたしますと、通算施業面積は、

町行造林 四三三・〇畝
公団契約造林 三〇四・七畝
県公社契約造林 二八八・五畝
合計 一、〇二六・二畝

昨年は本町発足三十周年に相当いたしました、この記念すべき年にはこの長期造林計画樹立二十周年に相当し、しかも公営造林施業一、〇〇〇畝を達成し得たことは誠に意義あることであつたと存じております。

三十周年記念の式典において、この一千畝達成の功労多き個人、団体に対し、町長から感謝状を贈り深く敬意を表したところであります。

今後においても、山国江府町の立地条件をわきまえ、無理のない造林を進め、ことに撫育管理に留意し、林産の今日的低迷にまどうことなく、山国江府町の夢を育ててまいりたく存じております。

昭和57年中町民所得推定の内訳 (単位千円)

住民所得合計	6,668,049
農業所得	1,204,049
農産物	450,933
米	(24,744俵) 152,716
牛	(584頭) 24,000
牛乳	(60頭) 6,715
乳牛	(43頭) 42,385
大豆	(388,118kg) 289,306
高加根	(330,143kg) 7,944
椎茸	16,282
養蚕	(21,064kg) 32,068
養花	(2,090kg) 4,807
山菜	310
その他	5,466
山林所得	3,414
わさ	(6,727kg) 22,018
白	(39,757kg) 22,437
転作	(86,543kg) 53,248
木	60,000
所得	10,000
労働所得	4,002,000
給与	3,520,000
賃	(1,400人、年200万)(600人、120万) 260,000
山林労働賃金	(200人260日宛1日5,000円) 72,000
技術労働賃金	(60人200日、1日5,500円) 150,000
	(60人270日、1日9,000円) 4,002,000
営業所得	585,000
資産所得	550,000
預金	25,000
有価証券	10,000
利子配当	477,000
土地並びに物件譲渡所得	120,000
その他資産所得	322,000
受給所得	25,000
年金	(1,026人) 10,000
扶助	
その他	

林業振興地域育成 対策事業費

一七二万二千元

本町は新規に本事業の指定を受け、林業を取り巻く悪条件に対処し、林業振興地域の実態にそくした各種の林業施策を推進し、地域林業及び山林の整備育成を図るための計画を策定しようとするものであります。

住民所得

本町の住民所得につきましては、

例年のごとく推計を試み、住民経済の動向を伺い、住民生活の安定度を尋ね、例に近來の経済不況となつておりますが、勤労所得の七五に当る三〇億円は大凡農家の農外所得と見る性格もありませんので、本町の農業対策は農外所得を上げやすい条件整備も農業対策と考へべき点多いとす訳であります。

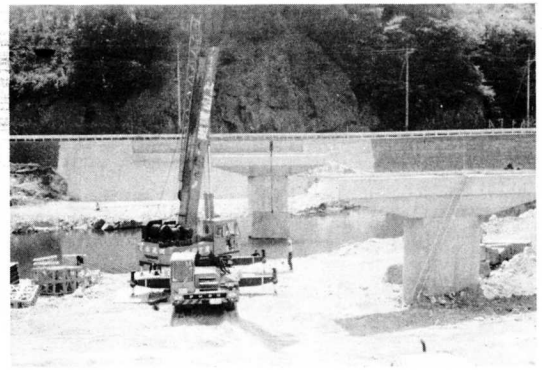
内容は、農業所得において大凡

土木費

一億八九七万二千円

久連橋に歩道橋を架設

道路橋梁総務費 二〇、二五六千円
 道路維持費 六、〇三二千円
 道路新設改良費 三、二〇〇千円
 歩道橋新設事業費 五〇、四〇〇千円
 交通安全施設整備費 一、二二八千円
 中国横断道路対策費 八七六千円
 道路防災事業費 八、〇三〇千円



▲急ピッチで建設工事が進む白住大橋

町道白住大橋

白住スポーツ公園に渡る大橋の

この事業は過疎代行事業を導入して施行願っているものであります。これに関連して公園附近の町道

の拡幅改良並びに久連橋の歩道橋架設も本年度から二か年事業で実施する計画であります。

企画関係

電源施設周辺整備交付金事業

189,357千円

(内訳)

用水路整備事業	5,654千円
農道整備事業	21,344千円
林道整備事業	145,355千円
排水路整備事業	17,004千円

第三期山村振興事業との合併事業

多目的研修集会施設事業費 31,651千円

水力発電施設所在交付金

既設発電施設所在町村交付金の制度により、対策事業を実施するものであります。
 本年度は、町道江尾久連大谷線舗装補修工事(久連地内) 延長 349m 3,000千円

商工費

四、六一三万二千円

商工振興対策につきましては、近來の経済不況に対処して事業の見直しと合理化を強調する所存であります。
 しかし経済は常に活気ある経済活動を育成することが大切でありますので、公共事業並びに各種開発事業など、国家事業や県工事、農業振興事業など誘致し、協力して住民経済の振興を図ってまいります。

又、商工会の活動を育成するため一、六〇〇千円を助成し、更に商工振興研究費二〇〇千円を補助し、中小企業の経営指導の充実を図ってまいります。
 小口融資 九〇、〇〇〇千円
 店舗改善資金 七、八〇〇千円
 同和小口融資 二四、〇〇〇千円
 合計 一二一、八〇〇千円

最近の経済不況下の制度金融については有効な制度であると同時に最も危険な制度であることに特に留意して安易に扱われたがために事業の見直しも合理化も行われず馳込み金融的な資金額となり却って事業の倒産に及びかねない事に思いを致し本年度は特に商工業保全のために金融審査に慎重を期し融資手続の審査の段階で充分

なる検討の措置を構する所存であります。

観光費

一、一七九万五千円

本町の観光行政の基本としているところは、自然保護を第一義としているのであります。自然そのものが本町の観光基盤であり観光産業の資源であります。
 本町の岡山県境、鏡ヶ成と大平原の両サイドに公営施設を設け大南山壁、鳥越峠、鍵掛木谷の大スロープの樹海、大平原、城山、六ヶ峠、笠原原、鏡ヶ成高原、擬宝珠山、鬼女台、瓜菜沢高原などを総称して奥大山と呼称し、広く天下に大自然の秘境奥大山として紹介しているところであります。

すなわちこの奥大山の地域に一切の町外及び商業資本の侵入を許さず、自然は完全に守られており、開発はすべて農業開発一本を貫いていることは本町の見識として自負するところであります。
 近代社会の観光は極めて重要な条件であります。それは自然が守られているところに意義があり、更にその地に古い文化の歴史が重要な要素であることを思い、歴史の伝承と文化財の保護、天然記念物名勝、古蹟の保存など努力して

教育費

二億二、七十八万四千円

米原分校を建設

教育総務費 二〇、九六五千円
 小学校費 二、三九、三〇三千円
 中学校費 一七、五四二千円
 社会教育費 二〇、一〇二千円
 公民館費 九、二七千円
 文化財保護歴史資料館費 四八六千円
 明德学園費 一、二七〇千円
 同和教育費 二、五〇四千円
 同和教育集会所費 一、一八千円
 義務教育を始め、教育行政については教育委員会において努力いたしているところでありますが、教育施設については常に町の行政責任において適切に対処しているところであります。

近來青少年の不良化が追々低年齢化し、学校暴力がひん発するなど憂慮に耐えないところであります。

きわめて深刻なこの問題は、唯青少年の個人だけの問題ではなく、近代社会全体、又家庭自体、親自体、そして学校自体、教師自体が青少年自身と共に人間形成の過程の中で教化し、善導し、学習すべきものと思うのであります。

このように近代社会は経済社会であり、物質文明社会でありますので、それに伴うへい害と犯罪と社会悪も混在しております。

この社会の中に青少年の健全育成を図ることは、社会も、家庭も、学校も、親も、教師も総がかりで断じて対処すべき重大問題であります。

我々は今こそ青少年の健全育成対策と、道徳教育と人間教育の充実について勇氣ある実行を進めねばならぬと存じております。



▲社会教育の一環として青年学級を開設

社会教育費

二、〇二〇万一千円

社会教育の振興については多様化する近代社会にあつて、住民は各々年齢も職業も生活事情も趣味

も志向も多種多様であります。しかも、経済意識の先行する現代社会にこそ、社会教育に一層の努力をつくさねばならぬと思うのであります。

本町においても、この社会教育に懸命に取組んで自己学習を深めつつ団体運営に努力している婦人会、青年団などの社会教育団体、又母子会、老人会、身障協会など、福祉団体、PTA、同推教など教育団体、農協婦人部、商工婦人部など職能団体、交通安全母の会、姑会など幅広い社会団体を対象に、社会教育の振興を期さねばならぬと念願するところであります。

溝口町と町学校組合の解散

米原分校を開設

昭和二十九年四月一日、旧日光村の溝口町及び江府町との合併により、日光小学校は両町の組合立として現在に至っております。

近來、大江山麓広域農道の町内全通を見てより、旧日光地区の交通条件が一変し、通学距離も短縮された現在としては、却って組合立学校に通学する方が不自然に思考するに至りましたので、地元側よりの要望もあり、町としては組合立の解消を図ることいたしました。

しかしながら、一部事業組合の解散の儀は行政上の法律行為であり、ことに溝口町、江府町の信義に関する問題であり、又住民間、ことに児童間の友情に関するものであり、更に歴史上の経過のあることでもありますので、これは慎重を期し、溝口町の心情を尊重しながら当町の方針について了解を求めてまいりました。

溝口町当局におかれましては、きわめて厚意をもって本町の申し出を了承せられ、両町の学校組合解散に関する協議は円満に成り立ちましたので、本議会に学校組合解散並びに財産処分及び継承事務に関する件を提出することとした次第であります。

私はこの機会に、学校組合発足以来溝口町当局を始め、溝口町住民各位から寄せられましたご厚意に対し、本町及び本町民を代表して深甚の敬意と感謝を捧げる次第であります。

なお、学校組合の解散と同時に、組合立日光小学校は解消され、四月一日付をもって江尾小学校大河原分校と統合し、新しく江尾小学校米原分校を開設する方針であります。

なお、本年度は臨時的に大河原分校舎に児童を收容し、米原分校建設を本年度一挙に完了する方針であります。

教育費の分析

小学校費	児童数	一三九、三〇三千元
児童一人当り	三三二人	
中学校費	児童一人当り	四三三、一八〇円
生徒一人当り	一五〇人	
学校給食費	生徒一人当り	一一六、九四〇円
小・中学校児童生徒数	五二六人	
社会教育費	一人当り	二八、五七六円
町民一人当り	二〇、〇九八千円	
社会体育費	一人当り	五、〇八四円
町民一人当り	一四、二四三千元	
		三、九五三円
		二、八〇〇円

社会体育を振興し、心身ともに健康な社会の建設を推進していくことは、近代の社会政策として当然の施策であります。

本町においては、先年来スポーツ公園の造成を進めてまいりましたが、グラウンド、テニスコート、体育館の建設を完了しましたので、大いに活用して社会体育を充実してまいりたく存じます。グラウンドの照明は既に完了しておりますが

本年はテニスコートの照明を実施する計画であります。

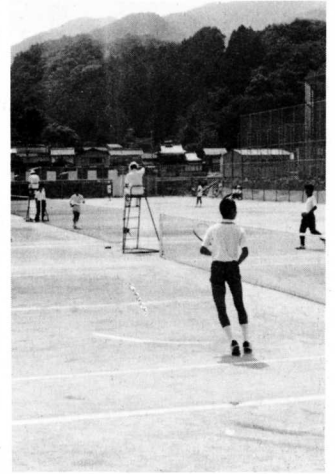
明徳学園(老人学級)費
一、二七万円

老人福祉明徳学園
一、八六万三千元

明徳学園は、社会教育、老人学級と老人福祉を吻合させ、しかも永続的生涯教育の場とし、老人福

保健体育費

334万3千円



▲夜間照明が計画されているスポーツ公園テニスコート

祉の場とし、健康管理と生きがいの人生観を追求する学園として育成していく方針に変わりはありません。

国体準備費

三、七九万円

第四十回国体は、昭和六十年に本県において開催されることになっておりますが、本町は山岳競技開催町として指定を引き請けております。奥大山高原に位置し、鳥ヶ山直下ひるぜん高原に直接する本町の立地条件上当然のこととして、積極的に対応して万全の準備を進めていく方針であります。

学校給食費

一、五〇三万二千元

本町は学校給食について県下に率先して生乳並びに米飯給食を実施してまいりましたが、唯分校の給食が分配距離の関係上残されておりますので、本年は可能な限り実施いたしました所存であります。



▲リフトが新設された奥大山スキー場

奥大山国民宿舎 山荘甘酒茶屋運営事業

観光と産業の接点に

ありますが、この施設は唯に営業のみの目的のものではありません。国立公園地内に位置する本町として、この奥大山の自然美を求めて訪れる旅行者のためにも、又本町の住民のためにも、ことに奥大山地内に町外、県外の大資本の侵入を防御するためにも、当然この施設を育成していく方針であります。更にこの施設を基地として観光農業を進め、自然休養村事業を導入し、観光と産業の接点の基地として益々育成していく方針であります。

索道運営事業

四、六〇〇万円

昨年度に設置しましたスキーリフトは、奥大山の絶好のスロープを持つ大平原に是非と念願しておりましたが、実現する事が出来ましたので、これの運営に最善の努力を払う方針であります。

(計画予定)

スキー可能日数	100日
リフト利用人員推定	
1日240人×100日	24,000人
延輸送人員推定	
1日360人×100日	336,000人
運賃収入推定	
1日456,000円×100日	45,600千円

息とあとまで開通

広域農道

侯野から中山町



▲下蚊屋地区と笠良原地区を結ぶ広域農道

昭和四十五年、国の農林政策としての広域農道の施策を大江山麓に誘致するに当り、本町は全面的にこれを受け入れ、地元負担は当然これを覚悟し新設ルートの開発を推進してまいりました。

この広域農道の全延長は江府町侯野から西伯郡中山町に至る七二キロに及ぶものであり、このルートの関係市町村は一市七町、町村を結ぶものであります。

この総延長七二キロの内、県道併用三〇キロ、農道新設四二キロであり

ますが、江府町地内延長は一六・二キロでありまして、全延長の二二・五キロ、新設農道四二キロに対しては三八・六キロとなっております。私はこの事業の町内施工に対し極力県道併用を排し、新農道の新設を推進すべく農林省並びに県当局に要請し、その実現を見て来た訳であります。それは産業、経済、文化、交通の発展を期すると共に、住民生活と地域開発、ことに奥地開発の基本条件にかかわる問題だからであります。

このルートは、本町において標高五〇〇以前後から六〇〇以前後を横断し、ことに本町は大山水系の深い谷々で仕切られている地形上の集落や、山地耕地を結ぶこのルートの新設は、本町の自然的悪条件を一変する歴史的事業であり、

本町の将来を開くものと確信するからであります。

私は、本年度において広域農道町内全通を記念し、その式典を執り行い、地域町民の皆さんと共に将来を語る機会を得たく存じております。

下蚊屋農用ダム建設

本格的に協議を

昭和四十五年から計画され、本町においても慎重に対処し、研究もとげ、地元との協議も十数年来続けてまいっておりますが、唯今地元下蚊屋、助沢両集落にダム対策の交渉委員会並びに地権者会の組織も出来、この計画に対応する地元体制が出来ましたので、私はこの計画の集約について、本年度

上期から本格的に解決を図る交渉、協議を進めたく存じております。

勿論、農林水産省に対しても、県当局に対しても、地元住民並びに農家、地権者の利権を守り、特に将来の不安を排除し、地元地域開発に有効な本町の歴史的昭和世紀の事業となる様全力を傾ける所存であります。



▲下蚊屋農用ダム建設予定地

町

長

日

誌

* 3 月

- 1日(火) 庁内会、体育協会役員会、町民総合体育館開館式
- 2日(水) 甘酒茶屋運営委員会、川上村長来庁在勤
- 3日(木) 在勤
- 4日(金) 中国横断自動車道促進協議会(広島)
- 5日(土) 婦人会研修会(米子)
- 7日(月) 母子家庭中学校卒業生及び中学校卒業就職進学者激励会
- 8日(火) 在勤
- 9日(水) 解放同盟県連行政交渉、国保運営委員会
- 10日(木) 部内会議

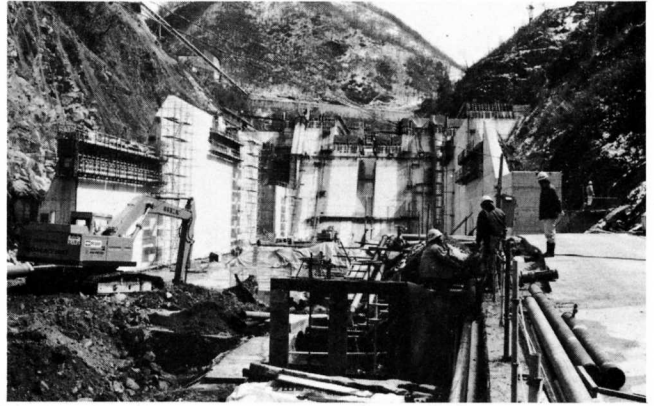
国民健康保険事業

見込世帯数	660世帯
被保険者数	1,950人
保険税総額	64,152千円
被保険者1世帯当り 保険税平均	97,400円
被保険者1人当り 保険税平均	32,890円
この計算の基礎となりますのは、	
被保険者1世帯当り 療養費	401千円
被保険者1人当り 療養費	136千円
国庫負担金	105,207千円
被保険者一部負担金	79,024千円
保険者負担金	80,385千円

昭和58年2月から施行になりました老人保健法に伴いまして、国保における医療費負担に影響するやの啓発も行われておりますが、これは今後の実態の推移を俟つべきものと存じます。

しかしながら、老人保健法によって行われるべき医療以外の保険事業については、極力これを実践していく方針であります。

すなわち、健康診断、疾病の早期発見と早期治療を守り、老人の健康生活を推進していく所存であります。



▲着々と進む伊野川発電所建設工事

伊野川発電所

61年に運転開始予定

ただ今進行中の中国電力伊野川発電所の建設工事につきましては、当初の計画では、昭和五十九年に一、二号機の運転開始が予定されておりましたが、着工が一年近く遅れたことと、経済界の情勢変化に伴い、突貫工事を平常工事に切り替えられたことにより、昭和六十一年に運転開始の予定になっております。従って三、四号機はさらに遅れ

て、情勢の推移に応じて対処されるものと思われまます。しかし、下池ダムに付帯して計画されている発電所は先行して昭和五十九年に運転する予定になっております。これらは経済社会の情勢に対応する電力、電力需給の開発計画に当然の措置ではあります。この経済情勢の悪条件の下にあって、中国電力社長を始め、中国

電力当局の実に熱意をもって伊野川発電所の建設を進めながら、特にこの建設が本町将来の発展と住民経済の繁栄に基本的にかかわるものであることを踏まえ、この事業完遂を通じて本町の繁栄に寄与せんとの誠意を示されている事に対し、深く敬意と感謝を捧げる者であります。

私は本町として、この中国電力当局の誠意に応え、一層の支援と協力をしてまいりたいものと念願するところであります。

中国横断自動車道

地元民の意向を尊重

本道路建設につきましては、先年来計画が進められ、地元関係集落に対しても要請が進められ、計画説明会も重ねてまいりました。

二月二十八日、横断道路建設江府町調査委員会の会議において、環境調査委員会並びに基盤整備調査委員会の組織が編成されましたので、自今この計画は関係地元民の意向を尊重し、適切に対処してまいります。しかしながら、この道路のことであり、交通上の問題であり、他市町村連なる問題でありますので、本町としても人並に集約して行かなければならないかと念願いたしております。

11日(金)	小林参議院議員来庁
12日(土)	定例町議会(本会議)
13日(日)	森林組合役員会
14日(月)	中学校卒業式、定例町議会(本会議)
15日(火)	定例町議会(本会議)
16日(水)	県知事選挙告示
17日(木)	定例町議会(本会議)
18日(金)	砂口鶴寿氏叙勲祝賀会
19日(土)	定例町議会(本会議)、小学校卒業式
22日(火)	発電関係所在市町村全国協議会理事
25日(金)	会(東京)
26日(土)	明德学園修了式
27日(日)	町婦人会総会
28日(月)	県発電施設所在市町村協議会、県過疎地域対策協議会
29日(火)	総会(鳥取)
30日(水)	佐川地区消防格納庫竣工式
31日(木)	助沢部落役員来庁、食生活改善講座閉講式、神奈川財産区会、半の上部落役員来庁

県知事選挙 県議会議員選挙

投票率 88・74%

四月十日、鳥取県知事と県議会議員の選挙が行われ、知事には西尾邑次氏、日野郡選出の県議会議員には松原一男氏と三森政治氏が当選しました。

今回の町選挙の投票率は、男八八・二三%、女八九・一九%、計八八・七四%で県下六番目でした。また当日有権者は、男一、八六九人、女二、〇八二人、計三、九五一人でした。



▶清き一票を投じる有権者
(第一投票所で)

食生活改善講座項目

回数	時間 内容	9.00~12.30	12.30~14.00
1	6月上旬	開講式 公衆衛生 食生活改善の必要性 バランスのとれた食生活	講 習
2	6月下旬	バランスのとれた 食事	食品と栄養素
3	7月中旬	〃	糖質と脂肪について
4	8月中旬	〃	たん白質について ビタミン無機質について
5	9月上旬	〃	献立の立て方 栄養価計算の仕方
6	10月下旬	〃	妊婦の食事 幼児の食事
7	11月中旬	〃	中高校生の食事 べんとう
8	12月上旬	〃	労働時の食事
9	1月下旬	〃	成人病の食事
10	2月上旬	〃	食物の衛生
	3月上旬	閉 会 式 テールプーマナー(希望者)	

健康なくらしくは、毎日の食べものを正しく、栄養豊かにとることからと、江府町が昭和五十四年から実施しています「食生活改善講座」

座」は、回を重ねること四年、受講修了生も六十四名をかぞえるに至りました。昭和五十七年度の、この講座修了式は、三月三十一

本当の食生活で健康保持

食生活改善講座



▲受講生を代表して記念品を受けとる徳岡さん

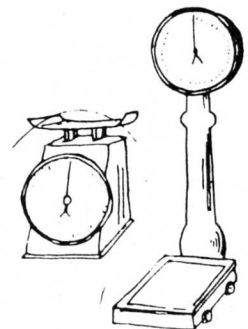
日、町役場に二十名の修了生が集合、根雨保健所長から修了証を、続いて井上町長から記念品が贈られ「一見文化的と見られる近ごろの食生活、特に見た目に訴えるだけの、売らんかな食品」で、人間の生命がつかないものなれど、更にはたくましく生きられるものなのかどうか、生命の根元である食品と今の食生活を、振り出しから考え、実践するこの講座の意義を十分かみしめ、折角の知識を家庭や社会に今後おおいに生かして欲しい」と、激励のことばに受講生を代表して手島容子さんから「これまで学んだ知識をもとに、家庭や地域に役立てます」とお礼と誓いのことばが述べられ、次の飛躍を約束しました。

また、五十八年度も引き続き上記の日程でこの講座を開講しますから部落保健委員さん、又は直接町役場へご参加を申込んで下さい。

修了者は次のとおりでした。

- (江尾) 入江恭子 遠藤規子 門田久子 重森純子 手島容子 徳岡明美 花田ミエ子 福田昭子 山本政枝 谷口歌子 岡本清香 (宮市) 河上和美 河上紀恵子 (袋原) 清水登美子(貝田) 谷口佐世子 森田照美(御机) 伊達磯美(小江尾) 手島陽子 前田京子 (一旦) 宇田川美智子

計量器の検査



計量器の検査が三年に一度行われますが、今年はその該当の年にあたり、次の日程で定期検査が行われます。

計量器をお持ちの人は、器具をきれいに掃除し、検査を受けてください。

検査を受けなければならない計量器は、

- ・質量計(はかり)
- ・手動はかり

指示はかり

・取引、証明に使用する計量器
ただし、家庭用(ヘルスメーター等)、農家が使用する試しはかりに使用する計量器は除きます。

日程 五月十八日(水)

午前十時から午後三時まで

農業準低温農業倉庫

人権を守って 明るい社会

六月一日は、人権擁護委員法が施行された日です。

昭和二十四年六月一日に人権擁護委員法が施行され、国民の基本的人権を擁護し見守る、いわば民間人による人権の番人の機関が誕生したのです。これが人権擁護委員による人権擁護委員制度の始まりです。

今年、国連で世界人権宣言が採択されて三十五周年に当たりますので、これを記念して全国の人権擁護委員は、「人権擁護委員の日」を中心としてみなさんとともに、一層の人権思想の啓発に努めることを申し合わせております。

江府町の人権擁護委員は、次の方ですので、いつでもお気軽にご相談ください。相談は無料で、秘密は固く守られます。

- 安江久夫（洲河崎） 三三〇
- 上原裕臣（江尾） 三三六

行政相談員に安江さん

安江久夫さんは、四月一日付で行政相談員に委嘱されました。人権の相談と同じように、遠慮なく相談してください。

（鳥取地方事務局、県人権擁護委員連合会から）

国民年金

5月31日までに 現況届を

国民年金の障害年金・母子年金・準母子年金・遺児年金及びか婦年金を受けている人は、5月31日までに「国民年金受給権者現況届」を町役場を通じて社会保険事務所に提出することになっています。

この現況届は、受給者が今後も引き続いて年金を受ける資格があるかどうかを年に1回確認するために行うものです。現況届を提出されないと、9月期以降の年金の支払いが一時差し止められることとなりますから気をつけましょう。

ただし、昨年6月以降に、新たに年金を受けられるようになった人や、年金の支給停止が解かれて受給できるようになった人は、今年は提出する必要はありません。

また、老齢年金や通算老齢年金を受給されている方の現況届は、各人の誕生日の末日までに社会保険庁に提出することになっています。



余生に希望をもって

明德学園修了式

▲57年度明德学園修了生

明德学園の修了式が三月二十六日、土井之内会館で行われ、一六九人に修了証が手渡されました。

式には井上町長はじめ来賓町関係者らが出席し、それぞれ祝辞が述べられました。また、学生を代表して自治会長・加藤政吉さんが「高年齢に達してから良き師に恵まれ、良き友を得て

学ぶことができる明德学園での学習は幸であり喜びであります。これからも時代の流れと共に私たち老人たちもますます勉学に励み、相寄り相扶けて余生を有意義に送り、社会のために役立つようにと念願するものであります。今日修了式を人生菓立ちの一こまと考えて今後一層健康に留意して長生を保つよう努力し、余生に希望をもって社会人として生き抜くことを誓います」と謝辞が述べられました。そしてその後、町民謡同好会による学芸発表があり、和やかなひとときを過ぎました。

町職員の異動

町では、四月一日付でこのほど次のとおり人事異動を行いました。

（ ）は、旧任

・課長級

同和对策室長（議事事務局長）

浦部 統

議事事務局長（同和对策室長）

板井 久

・係長級

財政課課税係主任（出納室主任）

関内志津子

教育委員会事務局出向（農林課

振興係主任兼議事事務局）

千藤 花美

出納室主任（教育委員会事務局）

徳岡まゆみ

・主事

商工観光課観光係兼奥大山国民

宿舎甘酒茶屋（財政課課税係）

山本 節美

農林課振興係兼奥大山国民宿舎

甘酒茶屋（町民課福祉係）

本高 善久

・新採用

議事事務局兼務 加藤 泉

農林課農林係兼奥大山国民宿舎

甘酒茶屋（臨時雇）

主事補 永井 明正

人の動き(三月)

お誕生おめでとう

小江尾 篠村 友紀 利治 二男
 柿原 奥田真理子 篤志 長女
 本一 川上 純也 卓也 長男
 杉谷 加藤 明香 晴紀 長女
 大河原 長尾美保子 保 長女

ご結婚を祝します

遠藤 敏彦 久連
 井上 恵美 大河原から
 金丸 健児 大分県大分市
 加藤しのぶ 佐川から
 前田 晶弘 佐川
 西村香奈子 大阪府枚方市から
 藤原 光広 保野
 市川真利子 米子市西三柳から
 柘植 繁夫 岐阜県恵那市
 小倉 恵美 江尾から
 神庭 伸介 江尾
 副島多香子 佐賀県伊万里市から
 大島 邦雄 島根県飯石郡
 米田 弥生 江尾から
 神庭 賢一 大河原
 奥谷 信子 日野町秋縄から
 土井垣史朗 武庫
 繼岩 尚美 日野町根雨から
 野坂 孝 吉原
 並河リエ子 米子市勝田町から
 高津 幸夫 美用
 松田 栄子 西伯郡淀江町から

ごめい福を祈ります

御机 新 定 57歳喜久子宅
 杉谷 川上千代美 92歳 勉宅
 荒田 高橋 光行 49歳弥生宅
 本五 澤田 源誠 79歳敦男宅
 杉谷 末次佐久三 79歳 勝宅
 下安井 久木 恵一 88歳 廣宅
 池の内 藤原うまよ 87歳陽一宅
 本五 村上 勝 22歳 勉宅
 新一 古川 祥弘17歳 桂子宅
 新一 入江 二郎18歳正太郎宅

ありがとう

ごぞいりました

三月中寄託分
 香典返しとして
 荒田 高橋弥生殿
 (夫光行様ご逝去)
 杉谷 川上 勉殿
 (母千代美様ご逝去)
 御机 新 喜久子殿
 (夫定様ご逝去)
 杉谷 末次 勝殿
 (養父佐久三様ご逝去)
 本五 澤田敦男殿
 (父源藏様ご逝去)
 新一 矢村敦美殿
 (夫麟一様ご逝去)
 池の内 藤原陽一殿
 (養母うまよ様ご逝去)
 内祝として
 杉谷 片山一郎殿(本人様退院)

大江 明) 米子市新山
 藤原 五月) 保野から

小江尾 篠田藤吉殿(本人様退院)
 深山口 下原満栄殿(本人様退院)
 下安井 中村真佐雄殿(本人様退院)
 小原 末次貞藏殿(本人様退院)
 下蚊屋 大森春子殿(本人様退院)
 助 沢 加藤浩司殿(本人様退院)
 新一 矢野鉄代殿(本人様退院)
 貝田 森田清美殿(本人様退院)
 西成 小沢壽正殿(本人様退院)
 佐川 住田玉子殿(本人様退院)
 新一 加藤東誌子殿(長安千草様退院)
 大河原 亀田 隆殿(本人様退院)

特別寄付

明徳学園書道部代表 小峰 繁殿
 作品展売上金
 柿原 加藤満寿幸殿
 竹ぼうき 40本

以上、社会福祉事業にご寄付いただきました。厚く御礼申し上げます。 江府町社会福祉協議会

善意銀行受払報告

1. 二月末累計額	二百七十一万五千四百七十円
2. 三月中寄付額	三十五万二千八百七十七円
内 訳	
香典返し	十四万円
快気祝	十八万三千円
その他	三万八百七十七円
3. 支出額	七千二百八十円
需用費	五千一百八十円
負担金	二千円
4. 三月末累計額	二百六万二千六十七円

江府俳句会報



▲ 江美城址には、今年も桜が美しく咲いた

上ばり来て見下ろす花も良かりけり
 この町に子どもも広場花吹雪
 井上 中山香
 咲き切つて白蓮の反り華麗なる
 満開の花に埋れて序舎古り
 遠藤 花影
 碧趾谷をへだてて山桜
 唐獅子の背にも口にも落花かな
 加藤 泉翠
 犬ふぐり可憐に見えて逞しく
 まだ花の京を脳裏に畑仕事
 川崎 藤枝
 傾ける花雪洞も灯を点す
 花のもと伏目におわす野の仏
 清水 純子
 上下線止る電車や花の駅
 雑草の花は紫春惜しむ
 中山 節子
 狭霧よりなお白くあり山桜
 刺身など色々盛りて花料理
 藤原 安生